

# 第12回ITS世界会議報告

伊東博人（企画開発部研究員）

## はじめに

第12回ITS世界会議が、2005年11月6日(日)から10日(木)にかけて、米国サンフランシスコのモスコニーセンターで開催されました。以下、会議の概要と併せ、当機構の活動を紹介します。

## 会議の概要

期 間：2005年11月6日(日)～10日(木)  
会 場：米国サンフランシスコ（モスコニーセンター）  
テーマ：‘Enabling Choices in Transportation’  
特 色：モスコニーセンターで行われた講演および展示のほか、サンフランシスコ市内の野球場SBCパークの駐車場において、今回の目玉であるショーケース「Innovative Mobility Showcase (IMS)」が開催されました。  
全参加者数は7,130人（会議登録・展示登録含む）、参加国数は55カ国に上りました。日本からは1,128人（会議登録・展示登録含む）、全参加者数の約16%を占める参加がありました。

以下、会議の概要を紹介します。

### ①開会式

11月7日(月)午前9時30分よりモスコニーセンターにて行われた開会式において、豊田ITS Japan会長が、「セカ

ンドステージ」を迎えた日本のITSのめざましい発展を踏まえ、法人として新たにスタートを切るITS Japanとして世界のITSの発展と普及促進のために今後一層の努力をしていく旨、あいさつを述べました。

そして影山警察庁審議官は、交通事故防止対策の切り札としてのITSに対し日本政府が期待しており、会議での情報交換が活発になされることを期待する旨、あいさつを述べました。

### ②セッション

今回の会議は、開会式である「プレナリーセッション」、閉会式である「クロージングセッション」、ITSをアジア太平洋、米国、欧州の立場から大局的に把握することができる「エグゼクティブセッション(ES)」、アジア太平洋、米国、欧州、それぞれ固有のITSの動向を深く知ることのできる「スペシャルセッション(SS)」、それぞれのITS技術について、各研究の成果を知ることができる「テクニカルセッション(TS)」、「サイエンティフィックセッション(SC)」の、6つのセッションから構成されています。

#### <ES>

ITSにかかる世界共通のテーマについて、アジア太平洋、米国、欧州の立場から大局的な発表がなされ、ITSの世界的な動向を把握することができました。道路利用者として身近な交通情報提供にかかるテーマから、ITSの将来的なビジョンまで幅広いテーマの発表がな

されました。全体的な傾向としては、旅客情報・交通管理、安全システムや環境に関する発表が多く見受けられました。

#### <SS>

アジア太平洋、米国、欧州、それぞれの地域から特徴的なITSに関するテーマが発表されました。SSを聴講することにより、それぞれの地域がITSのどのようなテーマに注力しているのかを把握することができました。傾向としては、日本からはDSRC、米国からは路車協調、欧州からはeSafetyに関する発表が多く見受けられました。

#### <TS、SC>

旅行者、安全システムと車載安全技術、公共交通などで利用されているITS技術に対する最新の研究成果について発表がなされました。傾向としては、衝突警報・軽減・防止システム、電子支払いシステム、路車間協調にかかる発表が多く見受けられ、各地域におけるITS技術の取組状況が明確になりました。

### ③展示会

自動車会社、地図会社、機器メーカーブースは規模が大きく、凝った造りで自社のITSに対する取り組みについて、製品の実演を交えながらアピールしていました。機器メーカー（シーメンス）と自動車会社（BMW）との車車間通信におけるコラボレーションの動きも見受けられました。

日本からの出展については、ブースの規模が大きく、日本企業のITS市場に対する意気込みが感じられる中、高度化

●国別出展ブース数

地域	国名	出展ブース数	比率(%)
アジア太平洋	日本	17	12%
	中国	4	3%
	韓国	1	1%
	オーストラリア	1	1%
	小計	23	16%
米 国	アメリカ	76	53%
	カナダ	10	7%
	小計	86	60%
欧 州	イギリス	9	6%
	オランダ	9	6%
	ドイツ	4	3%
	ベルギー	4	3%
	スペイン	3	2%
	オーストリア	2	1%
	フランス	1	1%
	デンマーク	1	1%
	スウェーデン	1	1%
	小計	34	24%
	合 計		143

が著しい地図を前面に押し出した日本企業のカーナビゲーションが多数展示され、海外にITS市場を拡大する動きを読み取ることができました。

2006年ITS世界会議の開催国となるイギリス、2007年の開催国となる中国の展示も、開催にあたっての意気込みが感じられました。

④ Innovative Mobility Showcase (IMS)

今回の会議では、体験型デモンストレーション「IMS」も話題となりました。GM、クライスラー、トヨタ自動車などの自動車会社をはじめ、ミシガン大学、ミネソタ大学などの教育機関の最新のITS技術を駆使したデモンストレーションを体験することができました。

実際に車両に乗り込んで体験するVII (Vehicle Infrastructure Integration = 路車間通信)の交差点衝突防止システム、交通情報提供やVehicle to Vehicle Communication (車車間通信)などの25のデモンストレーションは、どれも



豊田 ITS Japan 会長



展示ブース



映像による展示



パネルによる展示

非常に完成度が高いものでした。ITSをビジネスチャンスとして捉える各社の熱意の表れであり、今後一層のITS発展を示唆するものであると感じました。

#### ⑤閉会式

閉会式では、今回の会議の盛り上がった状況がハイライトビデオとして上映されました。その後、次回(06年)開催地のロンドン、07年開催地の北京、08年開催地のニューヨークのPR映像が流されました。最後に、「パッシング・ザ・グローブ」のセレモニーが行われ、会議の幕が閉じられました。

### HIDOの活動

今回の会議を、セカンドステージを迎えた日本のITSを世界へアピールする絶好の機会と位置づけ、当機構は、国土交通省を中心にORSE、JICE、AHSRAと共同で、コンセプトを「スマートウェイが実現するITS社会」、総合タイトルを「Smartway2007」とし、展示を行いました。スマートウェイによって「安全・安心」、「豊かさ・環境」、「快適・

利便」を実現することを、映像とパネルによってアピールしました。

#### ①映像による展示

スマートウェイの推進を通じた日本のITSに対する取り組みをアピールしました。ブース中央に設置した大型モニターでカーナビ・VICS・ETCの普及、スマートIC・AHS・バスロケ・自律移動支援等を紹介し、柱に取り付けられた小型モニターで、一つのITS車載器を利用した多様なサービスイメージを紹介しました。

#### ②パネルによる展示

官民共同研究の推進状況と今後日本が目指すスマートなモビリティ社会を紹介しました。カーナビ・VICS・ETCの普及状況など日本におけるITSの先進性を紹介し、ITSにより交通事故・渋滞等の「負の遺産」の清算、高齢者のモビリティの確保、豊かな生活・地域社会の実現、ビジネス環境の改善への取り組みを紹介しました。

#### ③資料配布

HIDO作成の「ITSハンドブック2005

-2006」をはじめとして、各地方整備局、関連財団等で発行しているITS関連資料、パンフレット等を希望者に配布しました。

#### ④アンケートの実施

ブース来場者に、日本のITSの現状と取り組みに対する認知度アンケートを実施しました。

### おわりに

今回は官民の連携のみならず、民間企業同士かつ異業種のコラボレーションによる成果展示が多く見られました。以前よりITSは様々なプレーヤーがお互いの強みを出し合い、協調した結果、飛躍的に発展するものであることが叫ばれてきましたが、ここに来て民間企業間にも浸透してきたことの表れであると感じます。

このような中であって、ITSの発展にかかる産・官・学の中核機関をなす当機構の役割は、今後一層大きく重いものとなっていくことを痛感させられました。

(いとう・ひろと)